

# 概括的な自伝的記憶と抑うつ，反すうの関連の検討

## —日本語版 SCEPT と FC-SCEPT を用いて—

筑波大学人間総合科学研究科 松本 昇<sup>1)</sup>

法政大学文学部 越智 啓太

筑波大学人間系 望月 聡

The relationships between overgeneral autobiographical memory, depression, and rumination: An investigation using Japanese versions of SCEPT and FC-SCEPT

Noboru Matsumoto (*Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan*)

Keita Ochi (*Department of Psychology, Hosei University, Tokyo 102-8160, Japan*)

Satoshi Mochizuki (*Faculty of Human Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba 305-8572, Japan*)

The Sentence Completion for Events from the Past Test (SCEPT; Raes et al., 2007) and the Sentence Completion for Events from the Past Test-Forced Choice version (FC-SCEPT; Raes et al., 2008) were developed as effective methods to measure overgeneral autobiographical memory (OGM) in non-clinical samples. In this study, Japanese versions of both SCEPT and FC-SCEPT were developed, and used to examine the relationships between OGM, depression, and rumination in undergraduate students. The results indicate that there are marginally significant correlations between OGM on SCEPT and negative rumination, negative OGM on FC-SCEPT and depression, but no significance differences among other variables. In addition, the Japanese version of SCEPT generated more OGM compared with the original version. This finding may reflect differences in the depression scales and rumination scales in each study, or cultural differences. Alternatively, the relationships between OGM, depression, and rumination within non-clinical samples may only be modest in nature.

**Key words:** overgeneral autobiographical memory, depression, rumination

### 問題と目的

近年、抑うつへの脆弱要因として自伝的記憶の具体性の減少 (reduced autobiographical memory speci-

ficity) や自伝的記憶の概括化 (overgeneral autobiographical memory) が注目されている。自伝的記憶の具体性の減少は、日時が明確であり一度きりの経験としての具体的なエピソードの検索が困難であることを指し示し、その代わりに、多くの出来事が集約されてひとつのカテゴリを成した概括的な記憶を検索しやすいといわれている。具体的な記憶の検索が困難である個人は社会的な問題解決方策に困難が生じたり、将来への想像が困難でありそれゆえ絶望感へと繋がるといった問題が指摘されている (レ

1) 本論文は法政大学に提出された2011年度卒業論文の一部に加筆・修正を加えたものである。本研究は法政大学文学部心理学科設置の研究倫理委員会の承認の下で行われた。  
本論文の一部の内容は第76回日本心理学会にて発表された。

ビューとして松本・望月, 2012; Williams, Barnhofer, Crane, Hermans, Raes, Watkins, & Dalgleish, 2007)。

自伝的記憶の概括化に関する多くの研究では, Williams & Broadbent (1986) が用いた Autobiographical Memory Test (AMT) が一つのパラダイムを形成している。この方法は, 実験参加者に手がかかり語を与えて制限時間以内にそれに関連する特定のエピソードを想起して語ってもらい, 想起した記憶が具体的であるかどうかを実験者側で分類する手法である。その際, 1日以内の期間の出来事 wherever どこで起きたのか明確な記憶を具体的な記憶 (specific memory: SM) として扱い, いつもあった出来事に関する記憶や1日以上長い期間に渡る記憶を概括的な記憶 (overgeneral memory: OGM) として扱うのが通例になっている。大うつ病性障害や大うつ病エピソード経験者を対象とした先行研究では, これらの人々は健常者よりも SM が少なく, OGM が多いことが報告されている (van Vreeswijk & de Wilde, 2004)。

うつ病の臨床群では上記のように, SM の減少が多くの研究によって明らかにされる一方で, 非臨床群を対象とした場合, 抑うつ傾向者が非抑うつ者に比べて SM が少ないか否かについて検討した研究は少なく, 非臨床群の抑うつ傾向者においても SM の減少が起こるかどうか検討をしていく必要がある。すでに先行研究において, 非臨床群の OGM を検出する方法として SCEPT (The Sentence Completion for Events from the Past Test; Raes, Hermans, Williams, & Eelen, 2007) および FC-SCEPT (SCEPT—Forced Choice version; Raes, Watkins, Williams, & Hermans, 2008) と呼ばれる文章完成法が開発されている。SCEPT は“かつて…”のように一部だけ与えられた文章の残りを完成させる形式になっており, 全11文で構成されている。調査参加者は全文記入後に自身が記入した内容が SM であったか, OGM であったかについて, 自ら分類を行う。この方法によって測定された OGM は, 抑うつ得点や反すう得点と有意な相関があることが示されている (Raes et al., 2007)。従来の OGM 研究では, AMT によっていつどこで起きたのか明確な具体的な出来事の想起を求める方法が一般的であった。しかしながら, SCEPT では, 具体的な出来事を求める教示は一切行わないため, 想起する内容は AMT よりも具体的な記憶が得られる確率が低い傾向にあることが示されている。また Raes et al. (2007) は SCEPT を実施したサンプルに対して SCEPT で具体的な記憶の想起を求める教示を行った場合と, 従

来通りの AMT を行った場合についても検討をしているが, いずれの方法でも OGM と抑うつ, 反すうとの有意な関連はみられていない。したがって, SCEPT は非臨床群の OGM 検出に優れた方法であることが示唆されている。

SCEPT は感情価を含んでいないが, FC-SCEPT では感情価を含んだ測定が可能である。FC-SCEPT は SCEPT 同様に文章完成法の形式をとっているが, その内容はかなり異なっている。FC-SCEPT では, 「私は…いつも X と感じる」(X はポジティブ語またはネガティブ語の形容詞) のような OGM の報告に相当する文章と, 「私が X と感じたのは…日 (瞬間) のことだ」のような SM の報告に相当する文章をペアで対提示し, どちらか片方の文章のみを強制選択式で完成させてもらう方法をとる。埋めた文章が OGM に相当する文章であれば反応を OGM として記録し, SM に相当する文章であれば反応を SM として記録する。文章は10のペアからなっており, X がポジティブ語になっているペアが5つと, X がネガティブ語になっているペアが5つ用意されている。FC-SCEPT によって測定された OGM は, Rumination on Sadness Scale (RSS; Conway, Csank, Holm, & Blake, 2000) によって測定された反すう得点と有意な相関 ( $r = .25$ ) があることが示されている。

本研究の目的は, これらの SCEPT および FC-SCEPT の日本語版を作成すること, そして, 非臨床群を対象に日本語版 SCEPT および FC-SCEPT を実施し, 抑うつや反すうと関連がみられるかどうか検討をすることである。

## 方 法

### 参加者

関東在住の大学生115名を対象に質問紙調査を行った。そのうち, 大幅に空白の項目があった回答などを除く, 合計で108名 (男性47名, 女性61名,  $M = 21.05$ 歳) を分析の対象とした。

### 日本語版 SCEPT & 日本語版 FC-SCEPT

SCEPT および FC-SCEPT は, Raes et al. (2007, 2008) によって非臨床群の OGM を測定する目的で開発された文章完成法である。本研究では SCEPT および FC-SCEPT の邦訳を行い, その際に一部表現の修正を行っている。日本語版 SCEPT および FC-SCEPT の詳細を付録1に記す。FC-SCEPT で用いる手がかかり語は Raes et al. (2008) が用いたものに従い, 「悲しい」「幸せだ」「怒った」「下手だ」「安全だ」「面白い」「傷つけられた」「成功した」「孤独

だ」「驚いた」の10語をこの順番で使用する。調査参加者にはSCEPTの全11文、FC-SCEPTの全10ペア文のそれぞれの文章を完成してもらう。なお、FC-SCEPTはペアで与えられた文のうち片方のみを強制選択式で埋めてもらう形式になっている。

#### マイルド抑うつ尺度

本研究では新たにマイルド抑うつ尺度を構成した。この尺度はBDI-II (Beck, Steer, & Brown, 1996) や SDS (Zung, 1965) をもとに、倫理的にふさわしくないとされる項目を削除し (自殺したいと思う, など)、一部表現を修正して再構成したものである。また、抑うつ気分誘導にならないように、逆転項目を多く用いている。尺度は15項目で構成され、参加者に5件法で回答を求めた。項目例としては、将来に希望がある、たやすく決断できない、何もする気が起きない、などが挙げられる。

#### ネガティブな反すう尺度 (伊藤 & 上里, 2001)

ネガティブな反すう尺度には、「ネガティブな反すう傾向」と「反すうコントロール可能性」の2つの下位因子がある。本研究ではこのうちの「ネガティブな反すう傾向」因子を使用した。ネガティブな反すう傾向因子はネガティブな反すうの有無、頻度、持続期間、を問う項目から成り立っている。併存的妥当性の面では、ネガティブな反すう傾向因子は坂本 (1997) の自己没入尺度 ( $r=.69$ ) や Sakamoto, Kambara, & Tanno (2001) の反すう型反応尺度 ( $r=.56$ ) などと高い相関が得られている。全7項目について、参加者に6件法で回答を求めた。

#### 手続き

マイルド抑うつ尺度、ネガティブ反すう尺度、SCEPT、FC-SCEPTを一斉にこの順番で実施した。

## 結 果

### 日本語版 SCEPT & 日本語版 FC-SCEPT のカテゴリ分類

SCEPTによって得られた回答は調査参加者自身が分類を行った。ある具体的な瞬間や特定の日の出来事について書いてある場合には“1”を、特定のときではなく、繰り返し起きた出来事やいつもの出来事について書いてある場合は“2”を、1日以上長い期間に渡る出来事について書いてある場合は“3”をあらかじめ設けたコード欄に記入した。それぞれ、“1”は具体的な記憶 (昨年祖父が亡くなった, など)、“2”はカテゴリー化記憶 (昨年はよく遊んだ, など)、“3”は拡張記憶 (私はまだ中学生時代をよく覚えている, など) に対応するコードで

あった。また、書く内容は思い浮かんでいたが、プライバシーに関わる内容だからといった理由で何も書けなかった場合には、書くはずであった内容が1から3のどれに該当するのかを判断し記入した。何も思い浮かばずに記入もしていない場合 (“記憶なし”) にはコード欄は空欄のままにした。

実験者は原則として記入されたコードに基づいて記憶を分類した。ただし、意味連想 (私は決して恋人を忘れないだろう, かつて私は人見知りだった, など) または不適切な内容 (かつてこの世界には大魔王がいた, など) に該当すると考えられる文章は、調査参加者が分類したコードとは関係なく、それぞれ“意味連想”と“不適切な記憶”としてカテゴリ分類した。以上の手続きによって、得られた回答を“具体的な記憶”、“カテゴリー化記憶”、“拡張記憶”、“意味連想”、“不適切な記憶”、“記憶なし”の6種類に分類した。なお、カテゴリー化記憶と拡張記憶と意味連想をまとめて加算した合成変数を OGM とした。

FC-SCEPTによって得られた回答は、具体的な記憶に関する文と概括的な記憶に関する文のどちらを埋めたかによって、具体的な記憶と概括的な記憶とに分類を行った。

#### 分析

SCEPTにおける分析ではSM、OGM、SMとOGMの合計に占めるOGMの割合を従属変数として扱った。FC-SCEPTにおける分析ではポジティブなOGM、ネガティブなOGM、全体でのOGMを変数として扱った。まず、OGMと抑うつ、反すうとの関連を検討するために、各々の変数についてPearsonの積率相関係数を算出した (Table 1)。その結果、抑うつ得点とFC-SCEPTにおけるネガティブOGMとの相関が有意傾向であり ( $r=.19, p<.10$ )、ネガティブ反すう得点とSCEPTにおけるOGMとの相関が有意傾向であった ( $r=.19, p<.10$ )。その他の項目と抑うつ、反すう尺度得点に関連はみられなかった。

次に、日本語版SCEPTとFC-SCEPTによって得られたSMとOGMの比率について、Raes et al. (2008) のサンプルとの比較を行った (Table 2)。SCEPTにおけるSMの比率、FC-SCEPTにおけるOGMの比率には差がみられず、概ね先行研究通りの結果が得られたが、SCEPTにおけるOGMの比率には有意な差がみられ、日本語版のほうが原版よりもOGMが多かった ( $t(303)=8.35, p<.01$ )。

Table 1  
SCEPT および FC-SCEPT と抑うつ、反すうとの相関

	ネガティブ反すう	SCEPT			FC-SCEPT		
		OGM	SM	OGM/OGM + SM	POGM	NOGM	TOGM
抑うつ	.60**	.01	-.01	.02	.03	.19†	.14
ネガティブ反すう		.19†	-.14	.18†	.05	.14	.12

\*\*  $p < .01$ , †  $p < .10$

Note. OGM = 概括的記憶の比率; SM = 具体的記憶の比率; OGM/OGM + SM = 概括的記憶と具体的記憶の和に占める概括的記憶の比率; POGM = 正の概括的記憶の比率; NOGM = 負の概括的記憶の比率; TOGM = 正と負の全体での概括的記憶の比率

Table 2  
SCEPT と FC-SCEPT における平均値と標準偏差

	本研究 $n = 108$		Raes et al. (2008) SCEPT $n = 197$ ; FC-SCEPT $n = 138$		
	$M$	$SD$	$M$	$SD$	$t^{**} (p < .01)$
SCEPT					
OGM	.55	.23	.37	.15	8.35**
SM	.34	.19	.38	.15	.20
OGM/OGM + SM	.61	.23	.50	.18	4.67**
FC-SCEPT					
POGM	.72	.26			
NOGM	.67	.27			
TOGM	.69	.22	.69	.17	.01

Note. 各略語については Table 1 の Note. を参照

## 考 察

本研究では日本語版 SCEPT および FC-SCEPT を作成し、抑うつと反すうとの関連を検討した。その結果、一部の変数間で有意傾向の相関が得られたが、強い関連を見出すことはできなかった。また、SCEPT における OGM の比率において先行研究との相違がみられた。以下では、先行研究との比較を行った上で考察を加える。

まず日本語版 SCEPT では、OGM とネガティブ反すう得点との相関が有意傾向 ( $r = .19$ ) であった。Raes et al. (2007) の研究では、SCEPT による OGM と反すうとの相関は  $r = .15$  であり、本研究で得られた相関係数はこれに近いものと考えられる。しかしながら、Raes et al. (2007) では SCEPT による OGM と抑うつ得点にも有意な相関 ( $r = .18$ ) がみられている一方で、本研究では SCEPT による OGM と抑うつ得点に有意な相関はみられなかった ( $r = .01$ )。日本語版 FC-SCEPT では、ネガティブ OGM と抑うつ得点との間に有意傾向の相関がみられたが、OGM とネガティブ反すう得点との関連を見出すことはできなかった。これは FC-SCEPT に

よる OGM と反すう得点に有意な相関があるとする Raes et al. (2008) の報告と一致しない。

このような結果が得られた原因として、ひとつには使用した尺度の違いが挙げられる。本研究では倫理上の問題からマイルド抑うつ尺度を新たに構成して使用したため、Raes et al. (2007, 2008) が使用した BDI-II と同一の概念を測定している保証はない。また、反すう尺度に関しても、本研究で使用したネガティブ反すう尺度が Raes et al. (2007, 2008) が使用した RSS や LARSS (Leuven adaptation Rumination on Sadness Scale; Raes, Hermans, Williams, Bijttebier, & Eelen, 2008) とは異なった概念を測定している可能性がある。

他の要因として文化差も考えられる。たとえば、日本人は諸外国人と比べてシャイネスが高いと古くから考えられており (Zimbardo, 1977)、そのような特性によって文章記入時に躊躇が生まれた可能性がある。本研究の SCEPT では Raes et al. (2008) よりも有意に多い OGM を記録しており、具体的な出来事を記入することを戸惑った結果として OGM を記入したケースが多かったのかもしれない。このような交絡要因によって抑うつや反すうとの相関が

得られなかった可能性が考えられる。

いずれにせよ、本研究では非臨床群を対象として文章完成法で測定した OGM と、抑うつ、反すうとの強い関連を見出すことはできなかった。この結果は、上記のような要因によって生じた可能性が考えられる一方で、そもそも非臨床群では OGM と抑うつ、反すうとの関連は希薄なものであるという解釈もできる。実際、Raes らの一連の研究で得られた OGM と抑うつ、反すうの相関も有意ではあったが弱い相関であった。方法論の問題から生じたものではなく、非臨床群では OGM と抑うつ、反すうの関連が小さいという可能性も視野に入れておくべきであろう。ただし、非臨床群を対象とした AMT によって抑うつと OGM の関連を見出した研究もあり (e.g., Ramponi, Barnard, & Nimmo-Smith, 2004)。知見は一貫していない。この点については今後の検討課題である。

次に、本研究の限界と今後の展望について述べる。本研究では、Raes らの先行研究にしたがって教示文を作成したが、SCEPT では具体的な記憶の想起を求める教示を一切含まなかったため、不適切な反応が多かった。全体でみると、記憶なし反応が 4.5%、不適切な記憶反応が 7.4% であった。このような教示は、調査参加者の潜在的な OGM 検索スタイルの測定に向いていると考えられる一方で、検索目標が曖昧であるために不適切な反応を起こしやすいというデメリットもある。特に、一斉実施形式の文章完成法は AMT のような実験とは異なり、調査参加者の参加への動機づけがまちまちであり、不適切な反応を導出しやすかったと考えられる。

FC-SCEPT では、具体的な記憶についての文章と概括的な記憶についての文章を強制選択式で埋めさせたが、ひたすら概括的な記憶についての文章のみを埋めている調査参加者も少なからずみられた。このような回答では、記述した内容は具体的な記憶であるにもかかわらず、それを概括的な記憶の文章に埋め込んでいることがしばしばあった。本研究ではあくまでも、概括的な記憶の文章に記述された内容は概括的な記憶、具体的な記憶の文章に記述された内容は具体的な記憶として分類を行ったが、記述内容には関係なく分類を行ってしまう FC-SCEPT の方法には疑問が残るところである。以上の点を改善していくのが今後の課題のひとつであろう。文章完成法は一斉実施が可能であるという点が大きな魅力であり、方法をより洗練していくことが望まれる。

## 引用文献

- Beck, A. T., Steer, R., & Brown, G. (1996). Beck Depression Inventory—Second edition, Harcourt Assessment, Inc.
- Conway, M., Csank, P. A. R., Holm, S. L., & Blake, C. K. (2000). On assessing individual differences in rumination on sadness. *Journal of Personality Assessment*, 75, 404-425.
- 伊藤 拓・上里一郎 (2001). ネガティブな反すう尺度の作成およびうつ状態との関連性の検討カウンセリング研究, 34, 31-42.
- 松本 昇・望月 聡 (2012). 抑うつと自伝的記憶の概括化—レビューと今後の展望—心理学評論, 55, 459-483.
- Raes, F., Hermans, D., Williams, J. M. G., Bijttebier, P., & Eelen, P. (2008). A "Triple W"-model of rumination on sadness: Why am I feeling sad, what's the meaning of my sadness, and wish I could stop thinking about my sadness (but I can't!). *Cognitive Therapy and Research*, 32, 526-541.
- Raes, F., Hermans, D., Williams, J. M. G., & Eelen, P. (2007). A sentence completion procedure as an alternative to the Autobiographical Memory Test for assessing overgeneral memory in nonclinical populations. *Memory*, 15, 495-507.
- Raes, F., Watkins, E. R., Williams, J. M. G., & Hermans, D. (2008). Non-ruminative processing reduces overgeneral autobiographical memory retrieval in students. *Behaviour Research and Therapy*, 46, 748-756.
- Ramponi, C., Barnard, P. J., & Nimmo-Smith, I. (2004). Recollection deficits in dysphoric mood: An effect of schematic models and executive mode? *Memory*, 12, 655-670.
- 坂本真士 (1997). 自己注目と抑うつの社会心理学. 東京大学出版会
- Sakamoto, S., Kambara, M., & Tanno, Y. (2001). Response styles and cognitive and affective symptoms of depression. *Personality and Individual Differences*, 31, 1053-1065.
- van Vreeswijk, M. F., & de Wilde, E. J. (2004). Autobiographical memory specificity, psychopathology, depressed mood, and the use of the Auto-biographical Memory Test: A meta-analysis. *Behaviour Research and Therapy*, 42, 731-743.
- Williams, J. M. G., Barnhofer, T., Crane, C., Hermans,

- D., Raes, E, Watkins, E., & Dalgleish, T. (2007). Autobiographical memory specificity and emotional disorder. *Psychological Bulletin*, *133*, 122-148.
- Williams, J. M. G., & Broadbent, K. (1986). Autobiographical memory in attempted suicide patients. *Journal of Abnormal Psychology*, *95*, 144-149.
- Zimbardo, P. G. (1977). *Shyness*. Reading, Mass: Addison-Wesley. 小林 駿・小川和彦 (訳) 1980 シャイネス I・II 勁草書房
- Zung, W. W. K. (1965). A self-rating depression scale. *Archives of General Psychiatry*, *12*, 63-70.  
(受稿3月29日：受理5月8日)

## 付録

### 日本語版 SCEPT

以下に 11 個の文章があります。文章は一部のみ与えられています。

これから、文章の残りの部分をそれぞれ埋めてください。内容は自由ですが、文脈には沿うようにしてください。また、書く内容はそれぞれ違うものにしてください。

空欄は長めに設けてありますので、端から端まで埋める必要はありません。空欄が足りない場合は余白に記してください。

1. 私はまだ\_\_\_\_をよく覚えている。
2. 私はまだ\_\_\_\_を思い出す。
3. 昨年\_\_\_\_。
4. かつて\_\_\_\_。
5. 先週私は\_\_\_\_。
6. 私はまだ\_\_\_\_を想像できる。
7. \_\_\_\_を思い返すことがある。
8. 私は決して\_\_\_\_を忘れないだろう。
9. 私にとって最も大切な思い出は、\_\_\_\_。
10. 昨年私は\_\_\_\_。
11. 私が\_\_\_\_のとき、\_\_\_\_。

### 日本語版 FC-SCEPT

以下に 10 個のペアになった文章があります。文章は一部のみ与えられています。

これから、文章の残りの部分をそれぞれ埋めてください。ただし、1つのペアにつき片方のみを埋めて、もう片方には何も書かないでください。(どちらかを埋めてください)

内容は自由ですが、文脈には沿うようにしてください。

- ・私が「X」と感じたのは、\_\_\_\_日(瞬間)のことだ。
- ・\_\_\_\_とき、私はいつも「X」と感じる。

(Xは感情語)